

検診初心者へ贈る「がん検診」ナビ!

市が実施するがん検診は全部で5つ。それぞれの検診内容をご案内します。



大腸がん検診
 注意の年代
 40代から増加

便の20分、
 容器に取って
 医療機関に提出
 すのぞけー!



肉眼では見えない微量の血液が便に混じっていないかを調べます。検査自体は、便の表面をこすって取るだけなのでとっても簡単ですよ!



検査は口のみ
 朝食を
 食べなくて
 大丈夫です。

胃がん検診
 注意の年代
 60歳以上で増加



バリウムと発泡剤を飲んで、胃の形や影などを調べます。60歳を過ぎるとがんになる人も激増します。定期的に検診を受診して、自覚症状が出る前に早期発見を目指しましょう!



現代人に増えている大腸がん

日本人で最も多い死因は、皆さんが知つてのとおり「がん」で、約3人に1人が「がん」で亡くなっています。

その中でも「大腸がん」は臓器別の死亡数をみると、男性では3位、女性では1位となっています。実は大腸がんにかかる人の数は、この30年間で約6倍にも増えていて、年齢別にみると40歳から年齢が高くなるに伴い、増えています。

以前は「日本人には胃がんが多く、欧米人には大腸がんが多い」ということがいわれてきました。ところが近年、日本でも大腸がんが増え続けているのはなぜだと思いませんか?

その最も大きな原因として考えられるのは、日本人の生活環境の変化にあるといわれています。例えば、運動不足であったり、野菜や果物の摂取不足、肥満や飲酒、喫煙などが要因として挙げられます。

皆さんに
 受けてほしい
 がん検診が
 あります!



保健推進課
 主任保健師 金井 由希子

胸のレントゲンの撮影と喫煙歴を

確認します

肺がん検診

要注意の年代

40代後半から増加



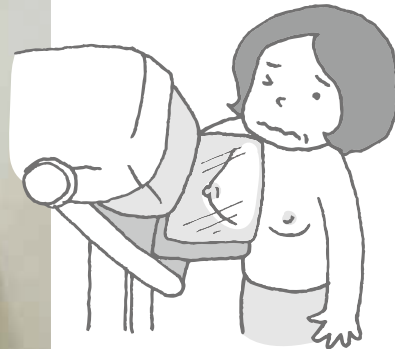
肺全体のX線撮影を行い、呼吸器科専門医2人が確認します。長期喫煙者には痰の検査もあります(自費)。たばこを吸う人も吸わない人もぜひ受診してください。



乳がん検診

要注意の年代

40代後半から50代前半にピーク



プラスチック板で乳房を挟んで撮影する「マンモグラフィー」

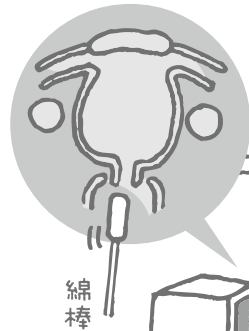


うすくのばします

子宮頸がん検診

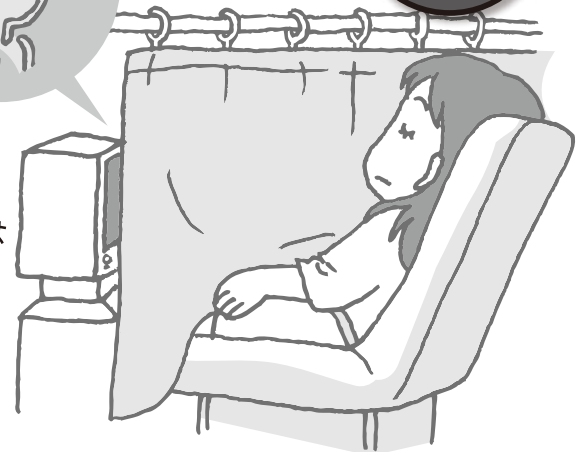
要注意の年代

20代後半から40代で増加



綿棒

検査時間は15分程度
痛みはそれほどありません



女性の皆さん! 「乳がん検診」は医師による視触診と、少ない放射線量で安全に小さながんを発見する検査です。40歳を過ぎたら2年度に1回は受診しましょう!

「子宮頸がん検診」では子宮の入り口を軽くこすって細胞を採取する「細胞診」と医師による内診があります。こちらも20歳を過ぎたら2年度に1回は受診してくださいね!



おすすめは「誕生日検診」!

とはいえ、先に挙げた大腸がんの要因に気を付ければ、大腸がん自体が減るばかりでなく、ほかのがん予防にもなったり、さらには心臓病や脳血管障害、糖尿病といった、いわゆる生活習慣病の予防にもなるといえます。

また、大腸がんは早期に発見されればほぼ完治するがんといわれています。逆に、血便や腹痛などの自覚症状が出てからだと他臓器への転移があったり、完治率は大幅に下がってしまいます。

早期発見のためには、何といても年に1回の定期検診が重要です。ところが、石狩市の大腸がん検診の受診率は決して高くないのが現状です。平成24年度の大腸がんの受診率は14%で、全国18.7%、全道15%と比較しても下回っています。

市民の皆さんが地域でいきいきと生活していただくためにも、ぜひ次のページの「がんを防ぐ石狩暮らし」を参考にしながら、併せて定期的な検診を継続して受けてください。なお、検診の受け方として私がおすすめるのは「お誕生日検診」です。自分の、あるいは大切な方の誕生日に受診すれば毎年機会を逃さず、習慣化することができますよ。

自分のため、そして自分の大切な方のためにも、命を守る「おとなのけんしん」をぜひ積極的に受診してください。

